# 豊橋と愛知大学

愛知大学東亜同文書院大学記念センター/
オープン・リサーチ・センター　研究員・運営委員
越知　専

今ご紹介をいただきました、越知でございます。

片桐（直彦）先生から「豊橋と愛知大学」、こういうテーマでお話をと、大変大きなテーマをいただきまして、どういう程度でどういう話をしたらいいか、ある新聞社の支局長にご相談をかけましたところ、「越知さんねえ、講義式よりも、要するに愛知大学と豊橋市のいろいろ本に書いていないようなエピソードを話した方がいいよ」と。シルバーの元気のある皆さん、もう60歳から90歳の方がここにいらっしゃるわけですから、「そういう方たちはもう本当に人生の達人でありますから、いろいろな本を読んでおられる。だから、本に書いてあることをしゃべらないで、本に書いていない逸話をしゃべれ」と言うんだけれども、さあ、1時間半逸話をしゃべりっぱなしでできるかどうか、スライドを見ながら皆さんと1時間半楽しい時間を過ごしたいと思います。

今日は愛知大学に研究支援課という部署がございまして、ここでは愛知大学の生い立ちから現在までの研究、そして資料発表をいたしております。その研究支援課の黒川さんがスライドを映写してくれます。

黒川（智広）さんです。よろしくお願いいたします。（拍手）この方が、私のスピーチの中で時折、「はい、それ」、「はい、それ」というわけで、スピーチに合った絵を出してくださいます。その作業をしてくださる方が黒川さんです。

それから、その次に愛知大学と豊橋技術科学大学の講師をしております日本史の先生、佃（隆一郎）先生。

お願いいたします。（拍手）

佃先生は、愛知大学の50年の歴史を調べ上げている先生です。技科大学と愛知大学の講師をしておりますが、主に日本史を中心に研究しております。

それからもう一人の方をご紹介いたしますと、愛知大学と名古屋産業大学の講師をしております、武井（義和）先生です。この方は、主にアジアの近代史を研究しております先生です。

武井先生です。よろしくお願いします。（拍手）

このご3人の方の協力を得まして、これから皆さんと1時間半楽しみたいと思います。

きょう皆さんの封筒の中に挿入してあります資

料がございます。この3枚の紙があるかと思いますが、レジュメが入っております。このレジュメを作成した方が、やはり愛知大学の記念センターのRA、リサーチ・アシスタントという係を持っております中西（千香）さんという方が、このレジュメをつくってくださいました。だから、女性的な文もちょっと入っております。

そういうことで、彼女は今、愛知大学と豊橋高等学校の中国語の先生をしております。豊橋高等学校というともともとは夜間の学校ですが、その高校で中国語を教えているんです。全国でも高校で授業の中で中国語をやっているのは少ないんです。その中で、なぜ豊橋高等学校で中国語があるか。おわかりになるでしょうか。それは、皆さんご存じと思いますが、豊橋と中国の南通市が姉妹提携を結んでおります。もっと古くは、村山談話というのがございまして、不幸な出来事のという、例の。その村山総理の秘書官をやっていたのが早川　勝、今の市長であります。だから、中国に物すごく思いがあって、ぜひこの豊橋の高等学校で中国語を教えてくれということで中西さんが選ばれたと聞いております。早川さんのその中国への思いが、この高等学校の中国語の時間に当てられたということも一つの逸話だと思います。きょうは新聞記者もいらっしゃいますが、そういうことは今まで新聞に書いていないと思います。そんなようなことで、できるだけ逸話を通してお話をしたいと思います。

片桐先生は、私よりも3つ年上、80歳でしたよね、皆さんご存じのように。私は、片桐先生の3年後輩になります。ことし77歳です。愛知大学の新制の第1回の卒業生で、2・8組というメンバーで、その中に後ろにいる金田さんがいらっしゃいます。金田さんも愛大の28年の卒業生です。そういうように愛知大学にはいろいろ多種多彩にわたって活躍している方がいらっしゃいますが、この片桐さんの友人に四方　晨（しかた・しん）さんという方がおります。四方　晨さんというと、お名前をお聞きしたことがあるかないか、恐らく児童文学を勉強している人、あるいは本をお読みになったら必ず四方　晨さんというのは名前が出てきます。その四方　晨さんと片桐先生は、愛知大学の学生時代、児童劇団というので、あるいは児童のための教育、そういうのを夏休みとか冬休みとかに市町村へ行って娯楽で楽しませてくる。戦後ですから娯楽のない時代ですよね。そのときに愛知大学の児童文学研究会という、四方先生を初め片桐さんが、市町村、あるいはそういうところに文化活動をしていた。その時分から愛知大学は地域に密着した、地域文化に貢献した大学と言われております。

だから、その時分に杉浦明平さんという方はご存じだと思います。渥美の作家ですね。あの方が、「東三河は文化的不毛地帯だ」という論文を愛知大学の機関誌に発表しました。そのときに、今からたびたびお名前が出ます本間喜一学長が、「いや、いや、愛知大学もできた。女子短大もできた」と。今、豊橋には3つ大学がありますね。38万都市で3つ大学がある豊橋は珍しい。そのくらい文化都市になったということであります。

その四方　晨さんが、豊橋市の、今度、市民病院の跡地に子供の関連施設ができますね。今、市民からネーミングを募集しています。最もふさわしい子供のための文化施設、それを四方　晨さんに早川さんは依頼して諮問したのが、あの今度できる子供関連施設です。要するに、豊橋にはノーベル賞の小柴さんがいますよね。ですから、これからの日本を背負って立つ子供のためにどうしても必要だということで、早川さんが四方　晨さんを諮問しました。それで企画したのが、いよいよ着工した子供関連施設なんです。それもあまり知られていませんけれども、そういう形で、愛知大学と豊橋の文化的な関係というのはいろいろあるわけです。

いろいろある中で、ここで一つ、豊橋市と愛知大学の対照年表をちょっとごらんいただきながら

対照年表

| 年 | 主な出来事 | 豊橋の歴史 | 愛知大学の歴史 |
|---|---|---|---|
| 1901年(M34) | | | 東亜同文書院が上海に設立 |
| 1906年(M39) | | 豊橋市誕生 | |
| 1932年（S7） | | 第一次合併：人口142,579人 | |
| 1945年（S20） | 終戦 | 豊橋大空襲 | 東亜同文書院閉鎖（当時学長　本間喜一） |
| 1946年（S21） | | | 豊橋に愛知大学設置初代学長　林毅陸 |
| 1949年（S24） | | | 女子学生受け入れ開始 |
| 1950年（S25） | | | 本間喜一第2代学長就任綜合郷土研究所設立 |
| 1952年（S27） | 日米安全保障条約発効 | | 愛大事件起こる |
| 1953年（S28） | | 台風13号襲来 | |
| 1954年（S29） | | 豊橋産業文化大博覧会開催豊橋動物園開園 | |
| 1955年（S30） | | 第二次合併 | 車道校舎設置・拡張 |
| 1959年（S34） | | 吉田大橋開通 | |
| 1959年（S26） | | | 本間喜一第4代学長就任 |
| 1963年（S38） | 38豪雪 | | 薬師岳事件本間喜一学長辞任 |
| 1964年（S39） | 新幹線開通 | | |
| 1968年（S43） | | | 『中日大辞典』完成 |
| 1969年（S44） | 東名高速開通 | 中学校の完全給食開始 | |
| 1972年（S47） | 沖縄返還日中国交回復 | 国際貿易港として豊橋港開港 | |
| 1973年（S48） | | | 愛大事件裁判　終審 |
| 1987年（S62） | | | 本間喜一氏逝去 |
| 1994年（H6） | | 豊橋港、自動車輸入日本一に | |
| 1996年（H8） | | 動植物公園オープン・新市庁舎完成 | 愛知大学50周年 |
| 1999年(H11) | | 中核市へ移行 | |
| 2001年(H13) | | 人口37万人を超える | 東亜同文書院大学創立100周年 |
| 2002年(H14) | | | 国際中国学センター（ICCS）設立 |
| 2004年(H16) | | | 車道新校舎完成 |
| 2005年(H17) | セントレア開港愛・地球博開催 | 人口38万人を超える | |
| 2006年(H18) | | 豊橋市100周年 | 愛知大学60周年 |

お話をしたいと思います。

3枚目に「豊橋と愛知大学対照年表」というのがあるかと思います。それを順を追ってちょっと簡単にご説明いたしたいと思います。

## [Ⅰ]

## 豊橋の生い立ち

1900年、そこから愛知大学の前身の東亜同文書院というのが始まったんです。ですから、去年が豊橋市制100周年だけれども、愛知大学は106

年です。そういうことで、1906（明治39）年に豊橋市ができました。それが市制100周年で去年まで大変にぎやかで、豊橋はいろいろなものを発信しておりました。人口3万7,635人で豊橋市が誕生して、それから昭和7年に人口14万2,579人で第1次合併が豊橋市で行われた。20年に終戦で豊橋大空襲。それと同時に、上海では、この東亜同文書院が日本の敗戦で引き揚げなければならない。だから、東亜同文書院はそこで一時閉鎖をいたしました。そのときの学長が本間喜一先生です。

その先生が日本へ帰ってきまして、新しく昭和21年に日本国憲法が11月3日に制定された、そのときに、どうしても東亜同文書院、あるいは京城帝国大学、あるいは台北帝国大学の先生方、そしてその学生の皆さんが、やはり日本に引き揚げて帰るべきところ、これはどうしても必要だということで、本間先生が中心になりまして愛知大学をつくる方向に持っていきました。

22年には最高裁判所、これは憲法発布と同時に効力を発効いたしまして、三権分立、そのときに最高裁判所の長官になったのが三淵忠彦先生です。その方と豊橋との関係は、中部ガスの神野太郎さんが慶応大学のときに三淵先生の信託法のゼミで勉強していたという関係がございます。

愛知大学がなぜ豊橋にできたか、どういう縁があったのかということですが、最初は全然縁もなくて決まったわけです。では、どうして決まったかというと、そのうちに出てきますけれども、サツマイモがあるから豊橋に決まったというお話になっています。

豊橋は、農業作物がいつも全国でベスト5に入っています。キャベツはでき過ぎてしまって、トラクターで潰して捨てていましたよね。そのくらい農産物が盛んなところで、戦後、戦中、サツマイモは高師原でたくさんとれたんです。戦後も私たちは食べるものがなかった時分には、サツマイモを食べれば、まず健康のためにもいいと。今は美容のためにいいと言っているけれども、そういう形で食べるものがなかった。

そのときに、なぜ豊橋かということですが、その時分、愛知大学をどこに決めるかということで、別府とか、鎌倉とかの候補地があったんです。ところが、そのときに同文書院の先生をやっておりました方で、皆さんご存じの高浜に神谷龍男先生という方がおられまして、その方が、こちらのニュースとして、師団長官舎とか、あるいは予備士官学校、教導学校が空くよと。ここに愛知大学をつくったらどうだという一報を本間先生に送った。そこで本間先生は皆さんと相談して考えて、日本の中心にある、だから東からも西からも講師を招くには最高だし、生徒を集めるのにいいということで、じゃ、豊橋に決めようということで、豊橋の市長の横田　忍さんを訪ねました。

横田　忍市長さんというのはなかなかの人で、「おれは三河人だ」と。これは、そのうちにスライドで出てきますけれども、元気のある市長さんで、「豊橋につくりなさい。つくれば学生たちにひもじい思いをさせない」と言って、机の上に「農林1号」――ご存じですか、農林1号とか2号とかは。豊橋の人は皆さん知っていると思いますが、それを出して、「これがあるから食うには困らせんよ」と言ったというんですよね。これは私、直接、横田さんから聞いたのではないんですが、本間先生からお聞きしたんです。それと同時に、「援助もする」という約束をいただきまして、事実、援助してくださったんです。市議会を通じて、そのときの議長が片山　理さんで、50万円を愛知大学に寄附してくれました。それが供託金になったのか、あるいは運営費になったのかわかりませんけれども、そういう形で、もうその時分から豊橋には大変な援助をいただいておりました。

［II］

## 東亜同文書院大学から愛知大学へ

そういう過程を経ながら愛知大学もできまして、愛知大学の初代の学長は林　毅陸さん。もとの慶応義塾大学の総長さんです。愛知大学をつくるときに、どうしても本間先生は「初代の学長は引き受けれない」と。なぜかというと、「東亜同文書院時代に学生を戦地にやって死なせた。僕は、そういうようなことで教育者の資格がない。だから初代の学長は引き受けられない」ということで、林　毅陸慶応大学の元総長になっていただいた。

林先生と本間先生とは姻戚関係でつながっているのか、あるいは信頼関係があって本間先生が林先生に学長をお願いした。林先生が学長になると、また豊橋につながりができたんですね。（パネル8）

豊橋には三田会というのがありまして、慶応大学の卒業生が多いんです。力があるんです。中部

パネル8

ガスの神野さんの親兄弟、皆さんそうです。そういうことから今度はお金集めに、林　毅陸さんが中心になりまして、神野さんの自宅へ行ってご援助願ったりなんかしています。だから、そのときにも中部ガスの神野太郎さんとして連帯保証をしてくださったという話も後ほど出ます。

そういう形で、縁がない豊橋に来てみれば、相当深い縁がつながりつつあった。そういう過程で、第1代、第2代と済んでいくわけですが、第2代のときに愛大事件というのが起きました。当時は、日米安全保障条約が発効しまして、そして、破壊防止法活動ということのために公安審査委員会というのが動き出したんです。それに愛知大学の数人が狙われたわけです。今からのは議事録に書いてあるんですが、その公安委員会の人は、「分子・細胞を調査せよ」という指令を受けて、ある学生に「光」10個と1,000円を渡したそうです。「光」と言えばもう皆さんご案内でしょうが、今の人は

パネル19

「光」なんて知らないよね。それで、愛知大学の先鋭分子の情報とチラシポスターをいただけないだろうかという話をどうもしたらしいですね。そういうことが知れ渡って、「ちょいちょい豊橋の警察署員が愛知大学をのぞいているよ」という噂が立って、「それはそのうちにまた来るぞ」というわけで学生たちが身構えて待っていたところ、ある夜、来たわけですね。それが愛大事件の始まりになる。(パネル19・20)

愛知大学へ警察官がどこから入ったなんていう図面までありますけれども、入ってきました。そして、これよというばかりに学生が警察官二人を、一人は逃げてしまったんですが、とらえまして、ピストルと警察手帳を取り上げて縛り上げたんです。そこで今度、警察の方では、職務執行妨害とかいろいろ条項をつけまして、豊橋の警察署長が指揮をとって愛知大学を500〜600人で包囲して、そして10数人を逮捕した。そのときの警察署長

愛知大学事件

## 警察官はどこから入ってきたか

愛大事件の焦点の一つである「事実問題」について補足してみよう。裁判での警察・検察側の主張は「パトロール職務中不審人物を発見し、これを追尾して北門からキャンパスに立ち入った」というものであったが、「北門から」という場所の真偽についての異議は当初から多かった。その一つを掲載する。

私は、当時愛知大学構内の東側二階建改造住宅に住居をもっていた。愛大事件の現場付近である。警察側は終始一貫して、北門から（…）制服警官二名が入構した、という主張を崩げなかった。私は、警官が東側土塀を越えて構内に不法侵入したという事実を知っている。学内にある住宅の奥さん達中の間で当時噂になっていた通り（…）である。噂と違うのは、「まさか制服警官とは思わなかった」ということだけである。私服警官らしき者が時折昼夜を問わず構内に出入りしているという噂であった。それを聞きつけた学生が「さあ、現場をおさえよう」と云って見張りをしていたのが事実である。学生の言い分も（…）本間学長が学生当事者から聞いて信頼しだのも、その通りであった。裁判所は、警察の言い分を事実認定で認めたから、学生の主張を認めている大学側の言い分を斥けた。

（愛知大学本部から約徒歩5分前 [illegible]さん）

ただし、事の本質は"どこから入ってきたか"ということではあるまい。警察の言うように犯人らしき者の侵入を追跡して構内に入ったとしても、大学側の諒解を受けていないから正当な警察の公務執行とはいえない。**"外部の権力者が学内に無断侵入した"**ことこそが根本的問題なのである。愛大事件が今日の私たちに語っている本質的意義を、忘れたり取り違えたりしてはならないであろう。

愛知大学応援隊員と近所のおばあさん

現在も、構内は「関係者以外立入禁止」としてあるがよほどの事がない限りとがめられる事はないだろう。

パネル20

が大野佐長さんです。その大野佐長さんは、その後、豊橋の市長さんになられまして、豊橋産業文化博覧会を成功させました。そのときには動物園も開園しております。

そういうような愛知大学の大変不幸な時期もあったわけですが、これについては後でまたスライドで細かくご説明をする時間があるかと思います。(パネル23)

もう一つの愛知大学の不幸な事故としては、3・8豪雪という、1963（昭和38）年、山岳部の学生が13人、冬山登山に行った。ところが、豪雪のときでありまして、そこで遭難をした。本間学長は、「大学がつぶれてもいいから全力で救出せよ」と、こういう指令を出して、「人命は地球より重い。大学は家庭と同じだ。自分の三親等以内の子供たちが遭難したと同じだ。そんな気持ちで愛知大学が遭難者を救出せよ」と。これが全国の新聞に出まして、支援金がいっぱい集まりま

13名全員死亡という悲しい結末。慰霊祭には肩を落とす本間喜一学長の姿があった（写真中央奥）。責任を負い、自ら辞任をした後も本間先生は悔やみ続けた。それから13年、88歳になられた本間先生は、「薬師詣で」の旅に出た。以下は同行した石井吉也前学長による回想文である。

富山県立アルプス薬師岳



慰霊祭を終ける本学学生関係

# 山岳部遭難者を追悼して

「薬師詣で」

愛知大学前学長　石井吉也

本稿筆者は、来年の春（八十八歳の春）、「薬師詣で」を計画しています。

1963（昭和38）年1月3日、富山県立アルプス薬師岳で、愛知大学山岳部の学生13名が遭難し、全員が凍死の犠牲となりました。

当時学長であった先生は、全力をあげて救出に取り組む。そのために大学がつぶれてもよいと、全員を救出するために

したし、時習館高校なんかでも生徒さんが自治会に寄附に回りました。そのくらい愛大を支援しようということで捜したというのですが、13人全員が亡くなりました。そんなことが愛知大学の二つの悲しい事件としてあります。

昭和43年になりまして、今度は一つのうれしい話があります。『中日大辞典』ができました。既にもう東亜同文書院大学としては辞典ができるように原稿のカードを14万枚用意してあったわけです。ところが、日本が負けたものですから、そこで全部没収されて帰ってきた。「ぜひ愛知大学に返してください。そして中日大辞典をつくりたい」ということでお願いをしたところ、それが返還されてできたのが出版の始まりです。

そして、昭和47年に沖縄返還が日本でありました。その沖縄に関する本間先生のエピソードもここで申し上げたいと思うのですが、先ほど申しましたように、東亜同文書院で生徒を戦地に送り出した、その戦争責任を感じている。もう一つ、あまり知られていない戦争責任を感じる一つの記録がございます。それは、「沖縄が返還されるまでは、たとえ国のお祝いであっても国旗は門に飾らない」、こういう決意をしたそうです。それは、「沖縄の人たちは人身御供のようなものだ。だから沖縄が返ってくるまでは僕は戦争責任を感じている」と言って国旗を出さなかったという、その逸話は、せんだってお嬢さんから書いたものでいただきました。

そういうような本間先生のエピソードは、今後いろいろお話をいたしますけれども、沖縄返還が行われたのが昭和47年です。そして、平成5年に東亜同文書院記念センターができました。愛知大学には日本で唯一誇れるぐらいの資料、図書、出版物があるんです。これが埋もれていた。これはもったいないという藤田佳久先生始め今泉潤太郎先生も含めて、これは資料を研究して公に発表しなければいけないのではないかということでできたのが記念センターで、これは国から補助をもらってやる事業になりまして、私もその客員研究員という形で今仕事をさせていただいております。

平成6年、豊橋港ができて日本の自動車の輸入・輸出港でトップになります。あるいは平成11年に中核都市に移行して、人口37万人になったのが平成13年。その平成13年に東亜同文書院大学の100周年記念が行われました。そのときに本間喜一先生の胸像ができ上がりました。上海同文書院の卒業生の滬友会5,000人ぐらいと愛知大学の同窓生12万人が一体になって同窓会活動をする、それが同文書院100周年の記念事業でもあったわけです。本間先生の胸像は、日展の彫刻の審査員になっております山本眞輔先生につくっていただきました。それが今、愛知大学の記念館に飾ってありますので、ぜひ愛知大学を訪ねていただいてごらんになっていただきたいと思います。

最近では、愛知大学が校区の皆さんと協力し合いまして、「ふれあいマップ」というのを南栄でつくりました。それを今日お持ちすればよかったんですが、ちょっと忘れてきて残念ですが、その中に愛知大学や、あるいは南栄地区をまちぐるみとして、文化と史跡と自然、緑のある地区だという——水口（源彦）先生がいらっしゃいますけれども、南栄の主ですよね。その方の資料も含めまして、今度、マップをつくりました。そして、南栄校区は文教都市として愛知大学を中心に栄えようではないかという、地域と一体になった大学、開かれた大学を強調するような運動が徐々に進んでおります。

平成16年、もう名古屋校舎は既に昭和30年にあったんですけれども、ただし、昭和30年には愛知大学の夜間部として発足した。「夜間の生徒たちが物すごく勉強するよ」と、本間先生がよく言った。「司法試験にも彼らの方が合格率が高いじゃないか」と。その車道校舎が新しく平成16年に13階建てのビルで、そこで大学院大学となっております。昨年は、72％の愛知大学の司法試

験の合格率で、全国で３位です。だから、同文書院関係の資料、中国語辞典、あるいはロースクールというのが、もう愛知大学の売り物であると。これから、どんどんそれを豊橋から発信していかなければならないというふうにも今、愛知大学は考えております。

そして、去年が市制100周年で、皆さんも一体になって、「ええじゃないか、ええじゃないか、やるまいか」ということで元気よく頑張りましたね。そういうこともありますけれども、愛知大学

ASC第２期文化同窓会ザ・カリオン教養講座　2007年1月23日（火）
於：豊橋市民センター

『豊橋と愛知大学』　越知　專（愛知大学S28年卒業、愛知大学東亜同文書院大学記念センター客員研究員）

１．豊橋の生い立ち、100歳から101歳へ
　江戸時代　吉田藩　松平家　東海道五十三次　吉田宿　交通の要所
　牟呂　ええじゃないか発祥の地
　イ）明治39年（1906年）　豊橋市誕生
　・明治・大正　養蚕業で栄える
　　軍制　第15師団設置　高師が原は訓練場として使われる
　　大正14年（1925年）宇垣軍縮により廃止→予備士官学校に
　ロ）昭和7年（1932年）第一次合併
　　（石巻村大字多米・下川村・下地町・牟呂吉田村・高師村と合併）
　ハ）昭和30年（1955年）第二次合併
　　（３月二川町・石巻村・高豊村・老津村・前芝村と合併、４月双和村（現・賀茂地区）・杉山村を分村合併）
　2006年　豊橋市100周年を迎える～そしてまた新たな100年へ向かって
　現在　多角的産業都市（農業・国際貿易港・水産加工業など）
　エコ都市　市電、５３０運動
　市内に３つの大学を有す、文化都市（愛知大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学）

２．東亜同文書院（大学）から愛知大学へ
　明治33年（1900年）
　近衛篤麿東亜同文会会長が上海に東亜同文書院を設置　初代　根津一院長
　　明治34年（1901年）４月　入学式
　　昭和19年（1944年）２月　本間喜一氏　学長就任
　　昭和21年（1946年）１月　東亜同文会解散
　　11月　愛知大学を豊橋に設置

３．豊橋にやってきた愛知大学
　愛知大学は愛知にあるからじゃない？
　サツマイモ「俺は三河人だ。」
　愛大事件と薬師岳遭難
　蚕屋と愛知大学
愛知大学と中日大辞典

４．これからの愛知大学と豊橋
　愛知大学　現在　武田信照学長（専門：経済学史、貨幣価値形態論）
　　三校舎（豊橋・三好・車道）
　　生徒数　約11,000人　教職員数　約500人　卒業生総数　約12万人
　　海外提携校　10の国・地域　27校
　　市民に開放された学術空間　オープンカレッジ・孔子学院
　豊橋市　現在　早川勝市長（大学時代の専攻：金融、財政学）
　　38万市民　姉妹都市３カ国３ヵ所（中国・南通、韓国・晋州、アメリカ・オハイオ州トリード）
　　誠心和気　和気百福　和気陽春　「万花咲き薫ってこそ春」
　　「平和・交流・共生の都市」へ
　　2007年　「不動如山から徐如林へ」

パネル展の一覧表

は、それに呼応しまして、愛知大学60周年記念の写真パネル展というのをやりました。

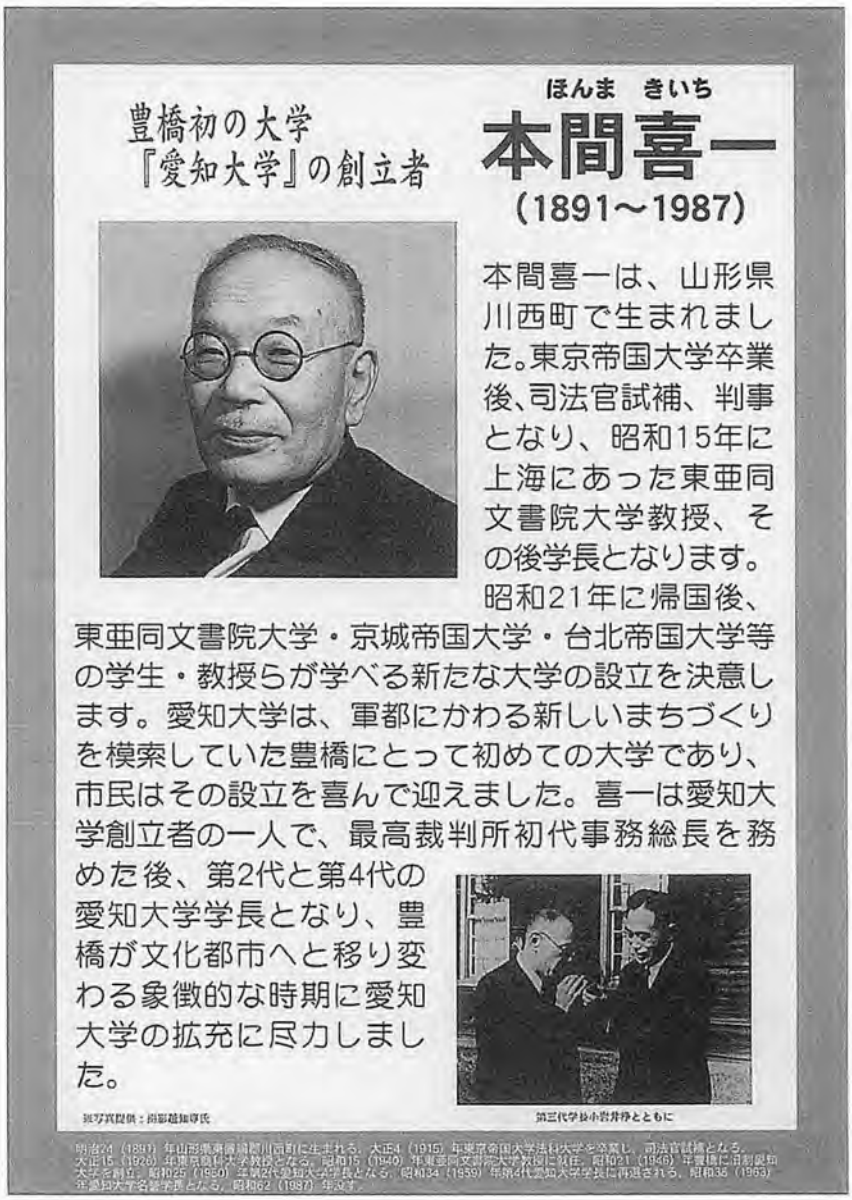
というのは、実は100周年のときに、「豊橋の100年を彩る教育者」ということで本間先生が選ばれました。そこで、これを機に愛知大学の写真パネル展をやろうということになって、今はもう愛知大学に常備展示してありますので、ウオーキングを兼ねて、ぜひ愛知大学をのぞいていただければありがたいと思います。

そういう形で、今からスライドの方に徐々に移らさせていただきたいと思います。

〔※スライド番号は、P. 62 パネルの一覧表参照〕

それでは、スライドの用意をいたしまして、まず36番の近代豊橋の歴史を彩る人たち、市制100周年パネル展です。(パネル36)

豊橋は、皆さん豊橋に住んでいる方ですからよくおわかりでありますが、ことし101歳になっています。江戸時代から吉田といわれて、「吉田通




パネル36

れば美人が二階から招く」などという東海道の要衝でもあったし、慶応3年の1867年には牟呂地区に御利益のあるお札が舞ってきたということで、そこから始まったのが「ええじゃないか、ええじゃないか」の踊りだという、そういう伝説もあります。

近年は、特に『早咲きの花』という映画を撮りましたが、あれにも愛知大学の記念館、公館が出てきます。

それから、NHKの『純情きらり』、これも愛知大学の記念館や馬場が出てきまして、ロケ地になりました。皆さん毎朝8時15分になるとテレビの前に座って、あれをずっと見られた方もいらっしゃるかと思います。

明治39年に豊橋が誕生して、昭和7年に第一合併、そして、30年に第二合併。だから、豊橋は吉田から養蚕業の都市になって、そして、軍都になって文化都市になったという経過をたどりながらこの100年を経過したと言っても過言ではないと思うわけです。

100年を当たるに、果たして豊橋市がどういうふうに変わったかというと、今はやはり多角的な産業都市として、農業あるいは国際貿易港、水産加工業、特にエコ都市としても、資源センターがありますが、あそこへエコタウンとしての温水プールとか、あるいは温室とか、そういうものもやっている。あるいは、市電が大正13年にできて、4.3キロを15の低床の車両が、人にやさしい、お年寄りにもやさしい電車ということで、今、全国に発信しております。

それから、530運動と、よくあちこちで言われますけれども、この530運動は豊橋が発祥の地です。そして今、先ほど申しましたように、文化都市になった。38万都市で3つの大学を持っているというのは豊橋ぐらいなものだよということになります。

愛知大学のことについてお話をすると、先ほど申しましたように、東亜同文書院大学というのが1900年にできた。その時分にどういう学生が行ったかというと、各県選抜で身体強健、頭脳明晰な生徒が県から推薦を受けて、公費でもって勉強した、その生徒さんが東亜同文書院の学生である。その学力、知力、体力、3つを備えた生徒さん、その流れを引くのが愛知大学でありまして、我々

東日新聞　2007年1月14日(日)

# 本間先生にせめての恩返し

愛大東亜同文書院大学記念センター客員研究員　越知　専

寄稿

愛知大学の前身である東亜同文書院大学最後の学生のひとりだった杉山好美さん（82）は、当時の学長・本間喜一印が押された証書（しょうめい）書（昭和廿弐年参月拾六日発行）を愛大に寄贈した。

中国上海にあったこの同文書院大学は、1900（明治33）年に近衛篤麿同文会会長によって日中友好を理念に設立された。各都道府県から選抜された優秀な学生が公費で派遣され、多くの中国人学生と共に学んだ。

1945（昭和20）年の敗戦によって学生、教職員は日本に引き揚げ、閉校になった。翌年、同文書院大学の本間学長を中心に京城帝国大学、台北帝国大学などの教職員が一体となって愛大を設立した。

同文書院大学を継承する愛大に保存されている当時の学籍簿や成績簿は、本間学長ら教職員とその家族が自分たちの荷物に優先して上海から持ち帰ったものであった。

その学籍簿や成績簿をもとに発行した杉山氏の「修了証明書」は、大変重要なもので愛大同文書院大学記念センターで額装のうえ保管されることになる。

杉山氏によれば「この証明書を見れば、戦後、国内の帝国大学は面接だけで合格だった」という。杉山氏は、京都帝国大学経済学部に入学、1947（昭和22）年に卒業した。

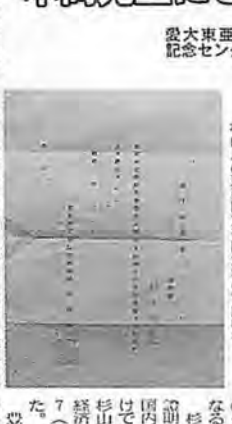
戦後四工会講所に勤務のあと、中部ガスの常務取締役を経て常勤監査役を歴任した。現在、愛大オープンカレッジで再び中国語を学んでいる。

現在あるのは本間喜一先生のおかげ―と巨大な本間氏の肖像写真の前に立って「お礼申しあげたい」とおっしゃった。

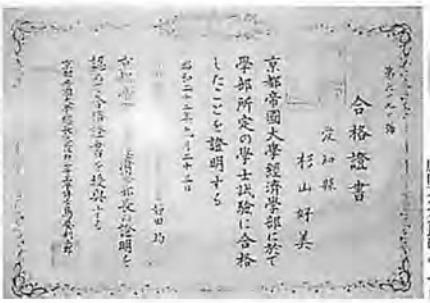
敗戦後、愛大設立のと神野太郎氏の命を受けて東海銀行に走り、愛大設立資金のための保証の印を持参したのは私です」と振り返っていた。

こんなエピソードを語る杉山氏は、本間先生に対し、せめての恩返しをしたようにも感じられた。

杉山氏の東亜同文書院大学修了証明書



本間喜一肖像画の前に立つ杉山氏



合格證書

淀江郡

杉山好美

京都帝國大學經濟學部に於て
學部所定の學士試驗に合格
したことを證明する

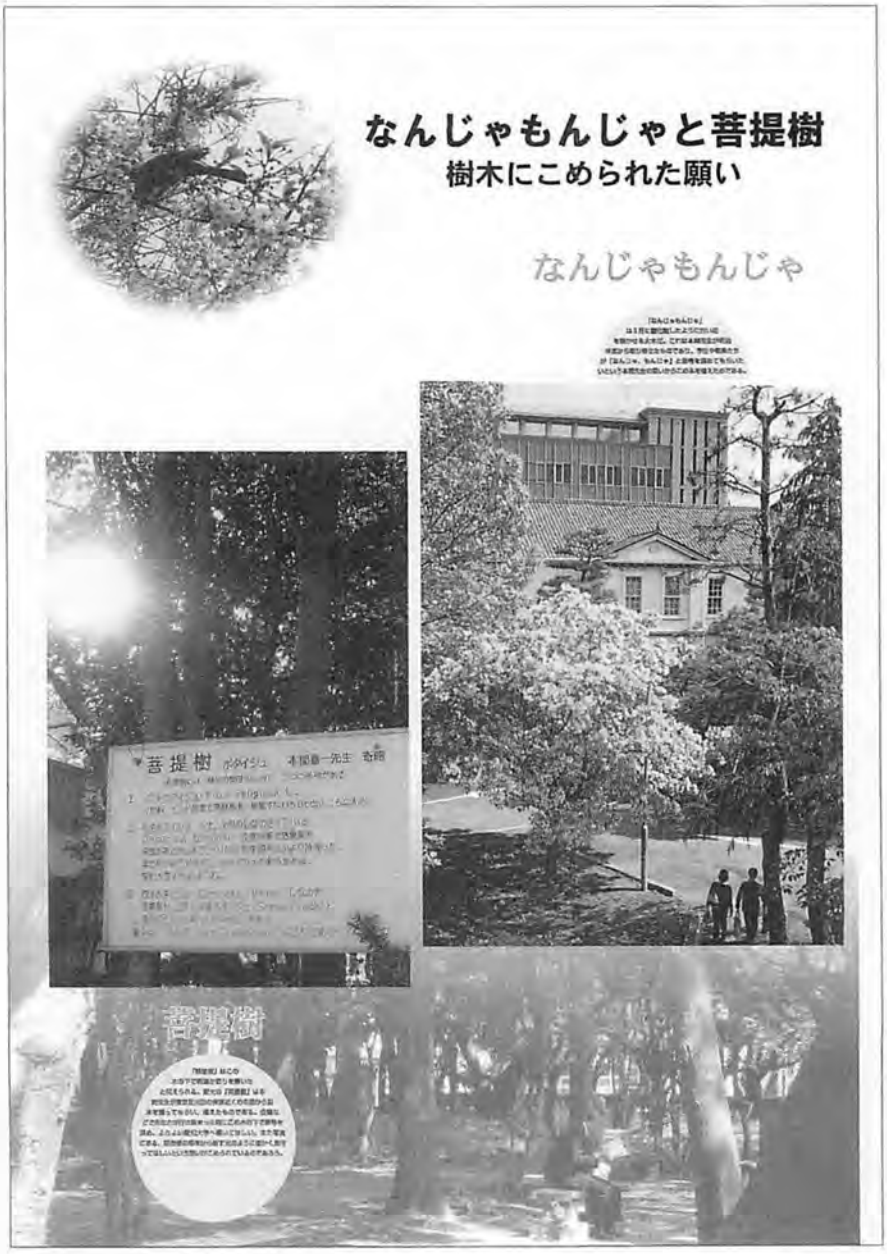
昭和二十二年三月廿日

京都帝國大學の合格證書

ももっと頑張らなければいけない。

せんだって、愛知大学の講演会があったときに、東亜同文書院の最後の卒業生の方がお見えになりました。その中に、これが東亜同文書院の修了証書だということで見せてくださいました。「これを持って行けば、その当時、全国の帝国大学、東京大学にしろ、京都大学、大阪大学、帝国大学、無試験でウエルカム、そういう書類ですよ」と、見せてくれました。これは皆さんにお配りした東日新聞の記事の中に書いてありますので、後でゆっくり読んでいただきたい。

その方は、中部ガスの秘書をやっておられて、常務をやられて、そして非常勤監査役をなさっておられる杉山さんという方です。その方が、京都大学の卒業証書と一緒に見せてくださいまして、それも新聞に写真と記事で載っております。そのくらい東亜同文書院というのは評価が高かったわけです。




パネル30

先ほどちょっとお話ししましたように、それでは、その同文書院大学で一番今資料として記録に残っているのが、同文書院の卒業生は卒業試験のかわりに中国を2カ月ぐらい行脚する。そして、歴史、経済、そういうものを調べ上げて、それを論文にする。そういうものがあるからこそ、今、愛知大学はそれを引き継いでいる。そういうことで、今度は国から見ると、大東亜戦争の戦争中はスパイ活動をやっていたのではないかというようなこともありまして、愛知大学が東亜同文書院を継承した大学であるということをあまり強調するとGHQにつぶされそうな時期もあったわけです。ですから、学校設立当時はあまり、東亜同文書院、東亜同文書院とは言わなくて、しかし、宝はある。東亜同文書院の学籍簿と成績簿、そして、『中日大辞典』のカードが、三種の神器ではないですけれども、愛知大学にあるわけです。それをこれからはどんどん発表して、愛知大学は創立以来同文書院を継承して106年だということを強調して、愛知大学の良さを知ってもらおうではないかということで、全国に発信をしようとしております。(パネル30)

## [Ⅲ]

## 豊橋にやって来た愛知大学

ところで、愛知大学という名前ですが、これはよく愛知県にあるから愛知大学ではないかと皆さん言われるのですが、創立したときの考え方はそうではなくて、「知＝智　フィロソフィー」を愛する、哲学を愛する愛知大学。それも今、愛知大学の旧本館の右に、春になると小さいきれいないいにおいのする花が咲く、ナンジャモンジャという木があります。そのナンジャモンジャという木がこれです。これが春になると物すごくきれいに咲くんです。これは、本間先生が明治神宮から払い下げを受けてこの木を植えたんです。「学生たちがこの木の下で、なんじゃもんじゃと言って議論してもらいたい、哲学してもらいたい」ということでつくったのが、このナンジャモンジャの木です。今度、向かって左側の方には菩提樹があります。釈尊が悟りを開いたといわれる、後光が出ています。「だから、皆さんはなんじゃもんじゃと議論して、議論の上でつべこべ言う人は、この菩提樹の木の下へ行って悟りを開いてこい」と、こう言って本間先生がこれを植えたというんです。これも逸話でしょうね。そういう具合に愛知大学には木がある。その木もいろいろの意味を持っている。だから、愛知大学も、「愛知」という地名ではなくて、フィロソフィーを愛する愛知大学というふうに創立者の本間先生は考えておられたわけです。

今度は、17番をお願いします。

サツマイモの件です。さっき「サツマイモ」というお話をしたらちょっと笑いも出たようですが、これは、愛知大学がまだ創立当時に整備をしているところで、軍隊の訓練場の跡に側溝を入れたりなんかしています。そして、サツマイモを植えたらどのくらいできるなんて言っているかどうか、それは聞いたことがないのでちょっとわかりませんが、その時代の本間先生です。

本間先生は、最高裁判所の初代の事務総長です。最高裁判所の三淵長官が、「本間先生が事務総長を引き受けてくれなければ最高裁判所の長官は引き受けない」と。そのくらい信頼が厚かった。子弟の関係ですね。三淵先生というのの教え子が本間先生です。

横田忍さん。この中に横田さんにお会いになった方もあるのではないですか。水口さんあたりはお会いになったのではありませんか。大変元気がよくて、これはちょっと柴田正二さんという、漫画家の清水　崑さんの弟子で豊橋在住の柴田正二さんが書いた漫画です。それはなかなか頑固一徹な感じに見えますね。この方が甘藷のお話をしています。本間先生と横田市長が初めて会見したと

きのこと、横田市長は机の上へ引き出しから大きなサツマイモを取り出して、「この辺ではこのような甘薯がたくさんできます。食料についてはご心配はご無用に願いたい」と。しかし、本間先生は不安そうな様子で、さらに念を押すと姿勢を正して、「俺は三河人だ」と返したと。「三河男児の歌」というのを私は中学校のときに習って、登下校のとき歌いながら歩いたんですね。この中にも恐らく「三河男児の歌」をご存じの方もたくさんいるのではないかと思います。

それで、逸話を多く話した方がいいということからいきますと、本間先生のエピソードで、11番、「兎小屋賛歌と愛犬太郎」。これは上の写真が本間先生と本間先生のお嬢さんですが、大変美人ですね。奥様が愛大事件のときに、ガンで亡くなりました。それで、そのときの逸話として、医者が「奥さんと愛大、どっちが大事か」と。しかし、本間先生は「僕が愛知大学へ行かなければ大変なこと

パネル17

になる」というわけで、愛大事件の裁判の弁護士としてちょいちょいお見えになって、奥さんはガンで亡くなられたわけですが、それ以来、お嬢さんはいつも本間先生と一緒で、いろいろ身の回りのお世話をしていた。そのやりとりが大変愉快なやりとりで、こんなやりとりもあります。

元旦に年賀状がきました。お嬢さんのお住まいに住んでいるものですから、お嬢さんが家主で、本間先生は、「兎小屋　上々吉の　ね正月」と。外国人が日本の家を兎小屋と表したころがありましたね。GNPが高いとかなんとか言っても日本は兎小屋ぐらいにしか住んでいないじゃないかと。そう言ったときにこういう句をよんだ。お嬢さんが家主で、本間先生が店子の「きーさん」、そういう落語ごっこをしたと。その落語ごっこの中にいろいろな逸話が生まれております。

10番映りますか。本間先生が裁判官時代のときの服装です。本間先生の学歴と経歴。

本間先生は、弁護士も検事も裁判長もやっておられまして、大変いろいろな経験を積んでおられました。そして、全国の弁護士さんの先生と言われるほど、弁護士さんが相談に行った先生です。全国の海苔漁業組合で顧問の弁護士をやったときに、今でこそ、すぐそこで発表されるものですから

10番の写真

らじっとしていないですが、その時分、昭和37年ごろですか、アメリカの船が千葉県沖にいて油を垂れ流してしていた。まだまだマッカーサーの力が強い、あるいは占領下の時代ですから、日本人も勝手にはそういうことは言えないけれど、垂れ流しけしからん、損害賠償というわけで、4億円取ったそうです。そのくらい勇気のある先生で、これが本当の愛国心だというふうに言われています。幾ら戦争に負けても敵に対して言うべきことは言う。占領されていても、そういう意気込み、気構えというものをあらわした一つの出来事だと思います。

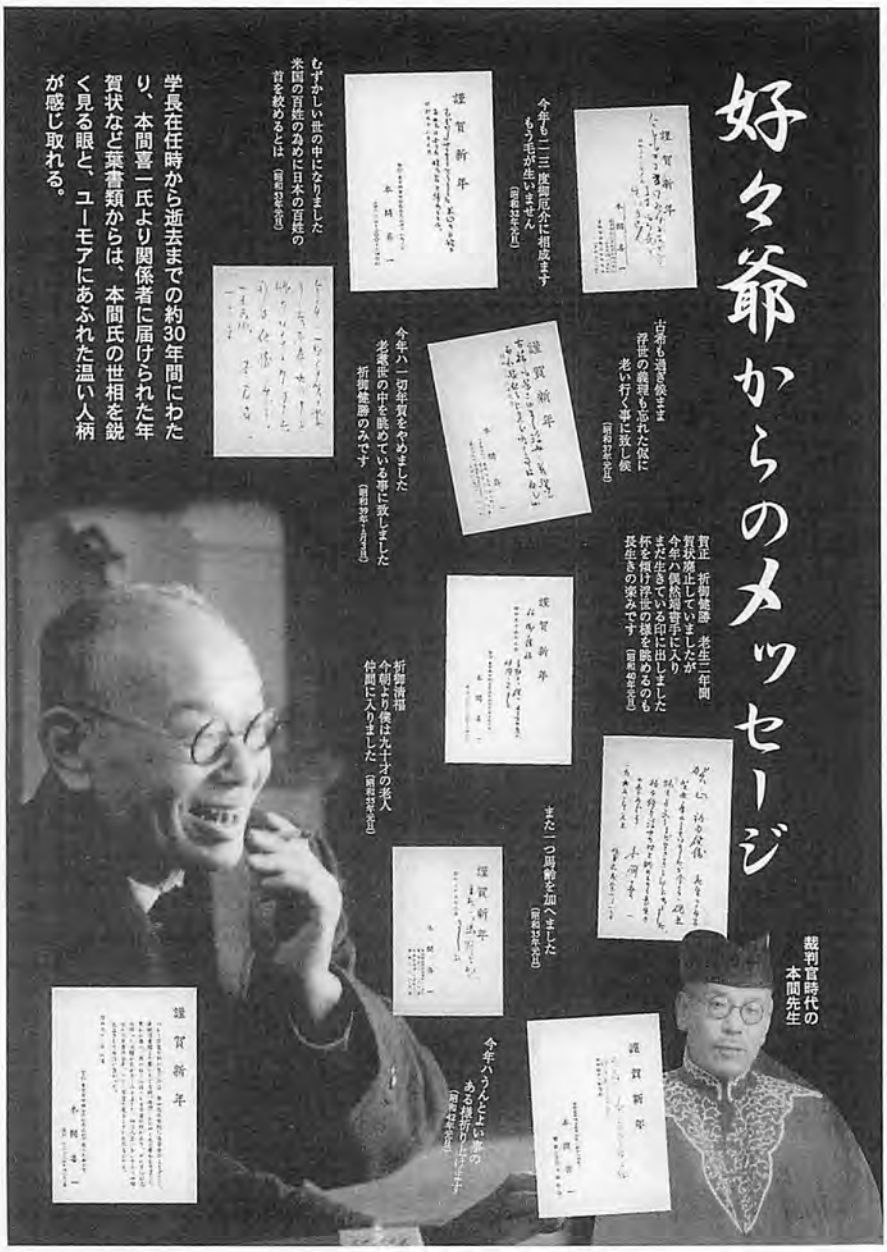
12番（パネル12）。これは「好々爺からのメッセージ」。30年間、私のところに本間先生がくれた年賀状の一部分です。そういうお葉書を見てもユニークな感じがします。私は、もともと理容師なんです。だから、本間先生の頭を刈りながらいろいろなお話をして、だからこうやってエピソードがいっぱいあるわけです。

「今年も二三度御厄介に相成ります　もう毛が生いません」というわけです。だけど、豊橋へ来て私のところへ寄ってもらうのが楽しみで、来てくださった。

「むつかしい世の中になりました　米国の百姓の為に日本の百姓の首を締めるとは」と、怒っているわけですね。これは、米の自由化のときで、日本の百姓を大事にしろと。そういうような、要するに社会を風刺した年賀状を毎年いただいております。

もう一つ、皆さんご存じだと思うのですが、今からもう40年ぐらい前になりますか、大崎のあたりが埋め立てになったとき。今は、もう国際港になって、貿易が日本一となったわけですが、その時分に、愛知県の企業局と大崎の漁業組合と干潟裁判ということで対立した。大潮、小潮によって土地が出たり水面下になった。だから、水面下土地の干潟裁判で、ここにその漁業権、あるいは大崎の漁業組合の人の所有権があるのかないの

か。「それは、海の水に隠れちゃうから、ない」と企業局は言うわけです。漁業を補償してもらう人は、「それは俺の土地だ、固定資産税も払っているんだ」と。そういう裁判があったときに、大崎の船井健一さんという漁業組合の組合長さんが私のところへいつも頭を刈りに来ていた。「越知さん、本間先生が来たら、一遍弁護士をお願いしてくれないか」と。「どういうことですか」と聞いたら、「干潟の裁判だ」と。それで本間先生がお見えになったのでお話をしたんですね。そしたら本間先生曰く、「そりゃあ、大崎の人たちが勝つよ」と。それも先生も、先生がご自分で経験している干潟裁判がいっぱいあるんです。「勝つ」と。「しかし、僕は弁護を引き受けられない。それは、豊橋の市長さん（河合陸郎さん）にお世話になったから」と。そういう人なんですね。義理人情が大変厚いというか、そういう方でした。これも一つの逸話であって、そのときに「越知君、こんな




パネル12

短歌をつくったよ」と言うんです。「時くれば
枯れ木と見えし山陰の　桜の花の咲き匂いつ津」。
短歌をやっている先輩がいらっしゃるので、本間先生の短歌がどうかわかりませんが、とにかく、枯れ木と見えると思ったけど、それは桜の花も咲くよと。もう勝つよということらしいんですね。裁判はもう絶対勝つよと。まあ、そういうような人柄の本間先生だということであります。

それでは、せっかくですから、時間があと30分の間に1番からずっと37番までいきます。

これが、この写真のスライドの一覧表もそこに入っております。標題とコメント、どういう意味でこうだというのが書いてありますから、これも後でゆっくり読んでいただければありがたいと思います。

では、これで黒川先生、1番からずっといきま

パネル一覧

しょうか。

[IV]

## 地域と共に60年

これから順序よくいきまして、その都度、簡単にご説明をしたいと思います。(パネル3)

これは、愛知大学ができて、昭和26年の卒業生、旧制大学で記念館前です。こういう師団長庁舎で、今、私、この部屋と隣の部屋に仕事場を持っておりますので、また皆さん、ウオーキングしながら愛知大学へ見学に来てくだされば ご案内しますから、そのときには、50年史については今の佃先生、同文書院については武井先生がご案内してくれますから、ぜひ南栄から、あるいは愛知大学前の駅で降りて、ゆっくり散歩して、天皇陛下お手植えの松、大正天皇陛下、昭和天皇陛下のお手植えの

パネル3

松があったり、いろいろの史跡もありますので、ぜひごらんになって、それで散歩した後、午前中に来れば、お昼に学生と一緒に、学食というのがありますから、うどん1杯250円とか、カレーライス280円とか、そういうのがありますから、食べて、愛知大学の文化、南栄地区の文化というものを味わっていただきたいと思います。

その地図は、それでは私がまたいただいて届けましょうか。南栄の栄校区の皆さんが、こういうマップをつくりました。33カ所のいろいろな史跡、目立つところ、そういうご説明があります。愛知大学を中心に書いてあります。これを1万2,000部つくって、愛知大学に500部寄贈してくれて、それで、町内の皆さんとか、あるいは希望の人に無料でお分けしております。栄校区の公民館へ行けば、たしかいただけると思います。

そういうことで、校区の皆さんが愛知大学と一体になって、まちおこしをやろうという元気があります。そこで、では、これは放っておけんというわけで、愛知大学として感謝状を校区の皆さんに出そうということで、あさって、感謝状の授与式をやります。

そういうことで、愛知大学にはいろいろな史跡とか、そういうものがありますので、ぜひ見ていただいて、こういう建物の中もご案内しますから、だから、この前も校区の皆さんが寄ってくださったときに、ぜひ師団長の椅子に座りたいなどという元気のおじいさんがいらっしゃいまして、座った写真があったり、ほほ笑ましい写真がありますし、あるいは孫文の資料ですか、そういうものもいっぱいありますので、ぜひごらんになってください。

それから、下へいきますと、これが昭和28年の卒業生です。ここに金田さんも恐らく写っていると思います。これは愛知大学講堂で映した写真です。

もう、この人たちが愛知大学の教授とか生徒、顔、顔、顔ということで、創成期の群像という形で。

こちらが初代の林学長、2代の学長、3代の学長です。（パネル6）

それで、その上をいきましょう。林　毅陸さんで、左が河合陸郎市長さんです。当時は、中部ガス、神野さんのお手伝いをしていました。こちらが神谷龍男さんといって、豊橋に絶対つくるべき

東日新聞　2007年1月11日(木)

### 豊橋市栄校区「ふ・れ・あ・いMAP」完成

## 2つのウオーキングコース 史跡や文化など23カ所紹介

校区の「ふ・れ・あ・いMAP」が完成、このほど栄地区市民館で配られた。

選挙系の町から、明治時代の軍都・豊橋市は戦後、文化都市・豊橋に生まれ変わった。とくに栄校区は文教地区にふさわしい愛知大学が誕生して60年が過ぎた。

栄校区総代会（西義雄会長）の「校区まちづくりを考える会」（石垣純孝代表）が中心となり、2004（平成16）年から活動を始め、昨年のとよはし100祭を記念し「さかえ歴史と自然の道」案内看板を、渥美線・愛知大学前駅など4カ所に設置したほか、新出大（42×59㌢）の栄校区文教、歴史自然マップを1万2000枚作製し、希望者に配布した。

このマップには、2つのウオーキングコースが紹介されている。1つは愛知大学記念館や、愛知大学公館、高師口塚古墳、馬頭観音、小松神社を経て、愛知大学前駅へのコース。

もう1つは、南栄商店街から時習館高校の富安風生句碑や、8代目玉屋庄兵衛と豊橋工業高校の教職員が一体となって作製したからくり人形時計塔、丸山薫詩碑を経て南栄駅へと続く道。

史跡や文化、ものづくりなど、町の歴史を含めて23カ所も紹介され、散歩やウオーキングの人たちに人気を呼びそう

国指定の文化財や史跡も多く、自然の緑があふれる文教地区、豊橋市栄

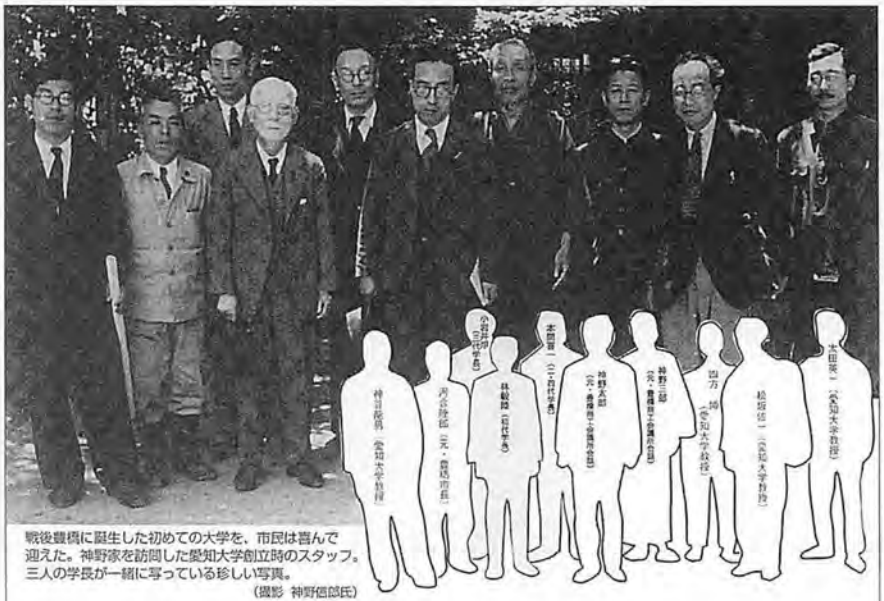
「愛知大学前駅」に設置された栄校区マップの看板

愛大記念館元大学長室でボランティアの説明を受けるウオーキングの皆さん

だといって案内した人。これが河合陸郎さんで、後ろの方が小岩井　浄先生、3代学長で、林　毅陸慶応大学元総長で、神野太郎さんと関係があった。そして、本間先生で、神野三郎さん。こちらが四方さん。さっき言いました四方　晨さんのお父さん。京城帝大の先生をやっていて、愛知大学の教授をやって、岐阜大学の学長になられた。

それからあとは、太田英一先生と松坂佐一さん。松坂さんは豊橋の方のご出身で、名古屋大学の総長になられた方です。

この写真が、「撮影・神野信郎」と書いてあります。今の中部ガスの会長さん。私と同級生で友達で、この前、「神野さん、写真はないかね」と言ったときに、「たまたま僕のところに愛知大学のお歴々が集まったときに、僕がローライフレックスで映した写真だ」と。だから、信郎撮影と書き直した。提供ではなくて、おれが映したんだよって。この写真も大変貴重なもので、愛知大学で




戦後豊橋に誕生した初めての大学を、市民は喜んで迎えた。神野家を訪問した愛知大学創立時のスタッフ。三人の学長が一緒に写っている珍しい写真。
（撮影　神野信郎氏）

## 三人の学長

小岩井浄

本間喜一

林毅陸

当初、愛知大学初代学長には本間喜一、小岩井浄の名前が挙がっていた。しかし、本間は戦争中に学生を戦場に送った責任を痛感しており、小岩井は研究面で全力を尽くす意向が強かった。

そこで白羽の矢が立てられたのが、林毅陸・元慶應義塾大学総長であった。

1946（昭和21）年、愛知大学設立はゼロからの出発だった。創成期の三人の学長は寄付金集めに奔走した。

パネル6

何か事があるときに、いつもこの写真を使わせていただいています。

これは、3人の学長の写真です。

初代の林　毅陸さんの略歴。外交史が得意でしたね。だから、欧州近代外交史の著書が多いのです。

代議士時代の林　毅陸さん。

次が、2代・4代学長の本間喜一さん。ご長寿で、100まで生きたいと言ったんですが、97歳です。ハレー彗星を2回見たとご自慢をされました。

これも一つ面白い話があるんですが、この勲二等の勲章、本間先生が勲二等の勲章をいただいたんですけれども、「おれは要らんよ」って、犬にくれちゃった。これは大変国に対して失礼なのかどうかわかりませんけれども、本間先生のおっしゃる気持ちというのは何かというと、実は、昭和50年に『中日大辞典』を編纂した、鈴木擇郎先生という、上海の同文書院の先生をやられた方で、そして、上海から引き揚げるときに、自分の身の回りよりも東亜同文書院の学籍簿や成績簿、そういうものを息子さんとご家族とともに手分けして持ってきた、その先生が愛知大学にずっとおられて、『中日大辞典』をつくられた。そのときに同文書院から出てきた人たちも一緒に愛知大学にお務めになったんだけれども、新制大学ができたときに、国立へ移った先生がたくさんいるんです。

ということは、愛知大学というのはもうゼロから、お金がないところから始まって、寄附や市の援助でできた大学ですから不安定でしょう。そこで先生方は、やはり国立の方が給料の取り損ないがないとか、それは言い方がちょっと悪いかもわからないけれども、そういう形で出て行った。そして、10年たち、20年たつと、その業績とか年数も含めて勲章を国からいただける。その場合、どうしても国立へ行った先生の方が先にもらってしまうわけです。それで、あるとき鈴木先生が勲章をもらうということが出て、本間先生が鈴木擇郎先生に電報を打った。これが電報文です。「バンザイ・キガセイセイシタ　ホンマ」ということしか書いていないです。「万歳　気がせいせいした本間」。これはお祝いの電報です。今はこんなふうじゃないですよね、違いますね。その時分は、お祝いか、お祝いでないか、袋が違うし、それから、配達の人も、これはお祝い電報か何か、文がわからんというわけで、まあ、一応お祝いの電報にしておけというわけで、鶴亀の電報にしてきたというのがこれです。同じく、鈴木擇郎先生が、私がいつも頭を刈っておりましたので、「越知君、本間先生から勲章をもらったというわけで、お祝いだと思うけど、よく意味がわからん。万歳、気がせいせいしたとはどういうことだろうか、僕は直接聞けんから、君、今度頭を刈りに来たら本間先生に聞いておいてくれ」というものですから、聞いたわけです。

そしたら、本間先生曰く「先ほど言ったように、同文書院京城帝大から来た先生が愛知大学へ一たん来た。ところが新制大学ができて、愛知大学以外に大学がたくさんできた。そこで国立へ移ってしまった。その人たちはもう5年も10年も前から勲章をもらっている。だから本間先生が、遅いと。遅過ぎると。だから、国は何だ、国家は何だと。私立大学を低くみておるのかというわけでいつも怒れていた。それで、擇郎先生が勲章をもらったので、『中日大辞典』というような立派な書物も発行した、そういう先生に対して勲章を発行するのが遅過ぎると。だから、まあ、よかったな、万歳、これで僕も気がせいせいしたという同僚思い、部下思いの一つの心情をあらわした本間先生の対応の仕方だったんですね。それで、太郎という電話番をする犬に勲章をやって、「僕は勲章は要らない。僕よりほかの先生にあげてくれ」という、そういう先生だったということです。

もう一遍犬のところを映してください。これは貴重な写真ですよね。

これは先ほど言った年賀状です。

小岩井先生です。ヒューマニティーにあふれた、

農民、いわゆる貧しい人たちの味方でした。だから、労働問題とか、労働関係の人には大変な大先生でした。(パネル14)

これも小岩井先生のヒューマニティーらしいところがございます。モンテンルパってご存じですよね。モンテンルパの歌って、渡辺はま子さんが歌った、あれがモンテンルパ。いわゆるフィリピンで戦争に参加した日本人が捕らえられてモンテンルパの収容所に入れられた。そのときに同文書院の生徒であった人が入れられたと。中俣富三郎さん、それがたまたま手紙が来た。小岩井先生はそれを「がんばれよ」といって手紙を送って、そして陳情運動をやって、釈放されて日本に帰ってきた。そういうふうな経緯、モンテンルパの思い出の一片です。

これは上海にあった同文書院の建物です。このスケッチは、豊橋の今の愛知大学の正門のところです。そのとき時習館の生徒で、今、絵の先生を

パネル14

やっている竹生節男さんという人が書いた絵ですが、「越知さん、これ、あげるよ」って言うものですから、私がもらうのもうれしいが、これはも

大学展示室　寮再現の部屋

60年前のスケッチ・油絵と竹生節男さん

っと大事に保管すべきだということで、今、大学に保管されております。

これが上海同文書院から引き揚げるときに持ってきた学籍簿と成績簿です。この学籍簿の中に、先ほど言いました杉山好美さんの項があるものですから、それに基づいて発行したわけです。そして、それを知った友達が、同文書院を卒業しなくても、もうこんなものはないものだと思って同文書院の事務局に、同文書院の卒業証明書を書いてくれといって言ってきた人があるそうです。だから、こんなものはないと思っていますからね。そういう人が、「いや、実はこういうものがあるよ」と言ったら、その人は赤面してしまって、バレちゃったわけですね、書くに書けないわけですから。そういうふうに、その修了証書があれば全国の帝国大学に無試験で入れてしまう。それを聞けば、それはやっぱり何とか書かせようと思って、うそを言って行った人もいるわけでしょう。そういう輩もいたというお話が実例であります。

これが今の『中日大辞典』で、鈴木擇郎先生と本間先生。このときに、河合陸郎さんが中国を訪問したとき、郭沫若さんにいろいろお話しして、そのときに『中日大辞典』の成功を祈ると、『激濁揚清』という額をいただきました。

これは先ほど出ました、サツマイモと愛知大学の関係はそういういきさつで、ひもじい思いを学生にさせないぞという横田　忍さんの一言でもって、愛知大学の本間さんが気に入ったという、ここに三河人があるぞという意気込みがあった。そのとき、そこにいた神野さんもいろいろご教示を賜ったそうです。(パネル18)

これは、ベルリン大学と愛知大学の類似説という新しい論説が出ました。酒井（吉栄）先生という憲法学者ですが、その方が「ベルリン大学ができたいきさつと日本の愛知大学というのは大変に似ていると。日本も戦争に負けて荒廃した世の中に、物はなくても心意気はある、精神力で立派な文化国家をつくり上げようといったのがベルリン大学で、愛知大学も同じ気持ちだと。そこで、今度はそういうような論文をお書きになった。ベルリン大学と愛知大学のつながりはどういう関係からきたのか。そういうつながりがあるという一つの論説が出ました。

豊橋に杉田有窓子さんという方がおられまして、その人が大磯にある吉田　茂さんという戦後の首相のところに対談をしに行って、イギリスのロンドンの話をしたと。豊橋とロンドンの関係はという、何か話をしたら、「そんなものは関係ないじゃないか」と、吉田　茂さんが言ったというんですね。そしたら杉田有窓子さんが、「いや、テムズ川と豊川は海でつながっている」と。そういう縁というのを、いろいろな縁の仕方もあるのだなというお話がひとつあります。それはちょっと違ったことですが、これは本当に、ベルリン大

学ができたときの経緯、日本の愛知大学ができたいきさつというのは全く相似点で多いということで、一つ、論文としてこれから浮き出てくるのではないかと思っております。

これが、先ほど申しました警察手帳とお巡りさんとその時分の拳銃です。これは本物を写したんですから、つくった写真ではないです。これは私が写真を焼いていたから本物です。原版を頼まれて、私、その時分に愛大の写真部におりましたので、写真をやっていたんです。先鋭分子に私は関係ないんだけれども、僕たちが愛大を使って写真を焼いたりなんかすると、犯罪にすぐ狙われると困るので、「越知さん、焼いてくれんか」といって、夜、原版を持ってきたものですから、それで焼いて差し上げた。

これを警察の方では、過剰防衛と同時に、これを撮ってしまってあるから、それは犯罪だというわけですね。ところが、愛知大学は、そんなこと

## 世界大学史から見た愛知大学
### ～ベルリン大学との共通点～

世界史との関連で愛知大学を捉えることも可能である。
愛知大学は東亜同文書院大学の継承校というべき存在であるが、
一方で、敗戦を経てゼロから出発した新しい大学でもある。
特に、ベルリン大学の創立が愛知大学のそれと類似している。

愛知大学設立趣意書には「文化国家」と同じ理念がうたわれている（学内石碑）

「文化国家」という概念を形成したフンボルト

**ベルリン大学創立**

ベルリン大学は、19世紀初頭に創立された。1806年フランスのナポレオンとの戦いに敗北したプロイセンは、フランスに対して領土割譲・多額の賠償金支払いを行わなければならなかった。こうした状況下、ウィルヘルム三世は「わが国は、その物質的な力において失ったものを、精神的な力でもって補わなくてはならない」と力説した。その結果、1809年フンボルトが宗教公教育長官に就任し、翌1810年ベルリン大学が創立されたのである。

**「文化国家」とは**

フンボルトは、高等学問機関の国家からの独立を主張し、「文化国家」という概念を形成した。彼により形作られ表現された「文化国家」とは、国家が文化を積極的に庇護する場合に成り立つものであり、国家は国民が自由にかつ多彩に真の学問をすることができるようにする義務を有するが、国家が学問に対して干渉することは許されないというものである。この考え方は、1816年に制定されたベルリン大学学則の構想を練ったシュライエルマッヘル、初代総長に就任したフィヒテに共通する認識であったといえる。

**ベルリン大学と愛知大学の共通点**

一方、愛知大学は日本敗戦の翌年に創立されたが、戦争直後に誕生したという点でベルリン大学に類似している。のみならず、「文化国家」の理念を体現している点においても、共通する。愛知大学趣意書には、第二次世界大戦による日本の物質的・精神的荒廃を再建し、学問、思想、文化を旺に興し、そして国際的教養と視野を持つ世界文化と平和に貢献する人材を育成することが謳われている。ここに、「文化国家」という理念が継承されているといえよう。

**愛知大学創立の位置づけ**

また、愛知大学の創立は、当時の日本の時代の影響を強く受けている。すなわち、敗戦国が占領されている場合、その国内法に優先して連合国最高司令部の法的規制に服さねばならず、司令部の覚書・指令が優位するという状況下で創立されたのである。ちょうどその時期は、日本国憲法制定（1946年）の時期と重なっており、軍国主義・超国家主義を除去し、平和の新国家を再建しようとする意気込みが伝わってくる。

愛知大学は、また、東亜同文書院大学を継承している点においてもユニークである。法的（de jure）にみれば、愛知大学は旧大学令に基づいて「旧制大学」として認可されたもので、東亜同文書院大学とは別個の大学である。しかし、これを事実（de facto）からみれば、設立にあたっては東亜同文大学書院大学の共同体的実体が存在しており、日中研究の課題は、現在もなお愛知大学に継承されているからである。（参考学説：櫻井吉晴愛知大学名誉教授）

愛知大学とベルリン大学の共通点の説明を受けるドイツ総領事（2006年5月、東亜同文書院大学記念センターにて）

パネル18

をしてはいかんと。だから、すぐ返せというわけで、あくる日に持って行ったんです。だから、預かったんだと。預かったとか借りたというのが本間先生でした。やっぱり違う。そのくらい本間先生は裁判においても、家族の一員だと思って、時には先鋭分子を叱りますよ。先鋭分子に対して、その前の年には自主退学を願ったんです。おまえたちはやり過ぎるんだと。行き過ぎちゃいかんよと。中和の精神でいかにゃいかんと言ったこともある。だから、子供は叱るときは叱る。しかし、悪いことをしても自分の三親等以内だというわけで、精いっぱい弁護するわけです。その一つの実例としても、警察は完全に「警察官の所有物を取って保持したじゃないか」と。「いや、預かったんだ」と。大分違いますね。そういう考え方。

裁判の問題になりますとちょっと学問的になりますので、次にまいりましょう。

では、警察官はどこから入ったって、警察官はまたうそを言っているものですから、本間先生も怒っちゃうわけです。これが北門で、こちらからお巡りさんが入っているんです。鉄条網がある土手があって、そこをくぐって入ったので服が汚れて傷になっている。それを、「ここから入ったんじゃない。向こうの北門から入ったんだ」と、こう言う。なぜかというと、「怪しいやつが通って行ったから、それを追っかけて入っただけだ」と、こうやって言う。「いや、そうじゃない」。さっきお話ししたように、その時分、先鋭分子のスパイ活動を調べようと思って公安官が動いていたわけですね。そういうようなことを知っていたから、まあ、ぼちぼちきょうあたり来るぞというわけで待っていたら来たと。ねずみとりにはまったようなものですね。ここで捕らえられて、手帳とピストルを取り上げられて、それで詫び状文を書かせたと。それを行き過ぎだということになって、今度は、大野署長さんが600人の警察官を動員して愛大を包囲して逮捕した。

その署長さんは、皆さんご存じの、これも皆さんが聞くのはきょう初めてかもわかりません。新聞にも出たことがない。その署長さんは大野佐長さんといいます。大野佐長さんは、そのあくる年に豊橋の市長になって、大博覧会も成功して市長を2期8年やっています。そして、その市長さんは男の子ばかり子供さんが3人おります。長男は、そのときに愛大の学生、次男はまだ大学生ではなかったので、高校から東京の大学へ行きたいといって、お父さんの大野佐長さんに相談したと。そしたら大野佐長さんが、「そんな東京へ行かんでも、豊橋に優秀な先生がいて、こんなに立派な大学がある。行く必要はない」と、こう言ったんですね。それで、3男の方も愛大で、全部3人とも愛大なんです。その警察署長さん、市長さんの息子さん。それは、やはり大野佐長としての愛大の見方、親としての愛大の見方、先鋭分子に対しては厳しいけれど、愛知大学を、しっかり物を正確な目で見ていたお父さんだなと私は思う。皆さんも、今お話しすればそう思われるでしょう。

そういうようなことで、警察官がうそを言って、怪しい者が入って行ったから追ってきたと。そうじゃない、初めからスパイ行為をしようと思ってやってきたわけですね。そういううそを言うので、本間先生も学生に、だれが見た、どこで見た、どうやって入ってきたということを調べて、学生の目は輝いている、うそは言っていない目だ、よし、それじゃ、おれが弁護士をやって勝とうといって頑張った。子供を守ろう、学生を守ろう、大学の自治を守ろうと思って一生懸命やったということです。そういう一つの実例です。

これは、北門での本間先生の現場検証です。このときに奥さんがガンで亡くなっています。奥さん大事か、大学大事かという問題であります。どっちも大事ですよね。

これは、さっき言った、13人全員遭難をした、薬師岳の遭難事件です。(パネル24)

愛知大学ができたてのころは、同文書院京城帝大、大学ではよく生徒さんたちはこういうマント

姿で、きょうも片桐先生に、この帽子をかぶって来てくださいよと言ったんですが。その時分は、マント姿で、学生服の上にぱっとマントを羽織る。そのスケッチを書いてくださったのがさっき言った竹生先生。時習館の生徒時代のときの愛大の学生服。これは面白い。マントに裸の足で、破れた帽子、厚い下駄、これは「ほうば」というのか、今はありませんか。今は、応援団は応援団のリーダー公開会にはこの服を着せて、今、私は応援団の後援会の顧問をやっているものですから、1年に1回こういう、マントじゃないけれども、下駄をこういうふうに履いて応援団をやりますね。しかし、よく議論をして歩いていたんですね。その議論をした、なんじゃもんじゃという、哲学を愛するというのかな。それから、本やノートを必ず持って、手拭いを腰にぶら下げていて、本当にまた颯爽とした形だというけれども、こういう一時期がありました。もう新制大学になってからこう

パネル24

いう姿は見られませんでしたけれども、最初の時分はこういう形であそこらを闊歩していた。

愛知大学は、その時分、学生たちでも社会に物すごく貢献していたんです。社会活動というか、今でいうNPOみたいなものですけれども、何でもそういう形で、例えば引揚者のお手伝いを舞鶴にまとまって行ったり、そういうことを愛知大学の生徒はやっておりました。

愛知大学は野球とか柔道が盛んで、いつも愛知大学は応援団を含めて、豊橋の駅の前でああやって見送りをやっていました。「フレー、フレー、愛知大学」って、もう皆さんがたかって見ている。

今、こちらは女子短大のあたりになっていますので使っておりません。こういうふうに、名古屋の夜間部ができたときの学生たちが勉強した車道の校舎です。(パネル28)

学生のこういう寮生活とか教室の姿。

これは、ナンジャモンジャと菩提樹の木。

## 夜間部・短期大学部の発足と変遷
### ―現在の2部と女子短大のルーツ―

夜間短期大学部法経科（豊橋）・文科第1回卒業生（1952年3月）

■創成期のユニバーシティ・エクステンションの一環として、本学は夜間講座や夜間学級、さらには大学別科を開設して、勤労しつつ学ぶ地域住民の向学心に応えてきた。これらの人々の熱心な要望に沿い、本学の夜間課程を確立させるべく、1950(昭和25)年に短期大学部が豊橋・名古屋（現車道）の両校舎で発足した。すなわち、これは現在の豊橋校舎での女子短大部とは別の、いわば「元祖」「初代」の「愛大短大部」である。

■その後、夜間の4年制化への要望が強くなったことで、学部の夜間部（2部）も1956年に設置された。いっぽう、地方都市での女子の高等教育の場を求める声も強くなったことで、昼間女子の短期大学部も1959年に開設された。「女子短大創成期」は教職員と学生との交流が特に密で、多種の行事が組まれて当初から活況を呈した。

女子短期大学部本館になった
旧陸軍倉庫（現在は不使用）

女子短期大学部で1年時に行なわれていた
キャンプスクーリング

■夜間の短大部は1979年に、4年制に一本化される形で全廃となった。

名古屋（車道）校舎での夜間講義の灯り（左側の建物は現存）

愛知大学のユニークな卒業生、三本松。平松礼二画伯。今、多摩美術大学から了徳寺大学の学長をやっております。

これが松浦元男君といいまして、世界一で小さな100万分の1の歯車、まだ使い物になるかどうか、検討中。

それから、これが日本を代表する世界の写真家の東松照明氏。写真展もやりましたね。

これは、中日友好協会の孫　平化さんですが、本間先生が入院されたときにお見舞いに持ってきた書です。(パネル35)

これは、写真部の東松照明氏が撮った写真を真似して学生が撮ったんだけれども、全然違いますね。最近、写真部の学生が撮った写真、55年前と東松が撮った写真です。(パネル31)

こういう形で、今回写真展をやるについて皆さ

パネル35

んから資料を集めさせていただきました。

ありがとうございました。

それでは最後に、ちょうどあと2、3分ですね。スライドを終わりまして、したがって、今ごらんになっていただいたように、資料に基づいてエピソードなんかも、まだ話を聞いたことがない方、あるいはそれを言ってよかったのか、悪かったのか、ちょっとわかりませんけれども、エピソードを中心にして、愛知大学の歴史をお話ししました。

パネル28

## [V]

### これからの愛知大学

では、これからの愛知大学はどうか。今、愛知大学は武田信照さん、大阪市立大学大学院を出た学長先生ですが、この人はなかなか論客の先生でして、専門が経済学史、貨幣価値形態論の研究をされまして、若いとき、久留間鮫造さんと論争をする、そういう学究肌の先生であります。愛知大学は名古屋に車道校舎、三好の校舎、豊橋の3つのキャンパス、生徒数が9,800人、教員数400人余、卒業生12万人で、外国との提携27校、市民に開放された基礎講座として、オープンカレッジや孔子学院で生徒数が8,500人あります。そういうことで、将来も愛知大学は期待されておりまして、前回、新聞でごらんになったと思いますけれども、笹島キャンパスを名古屋市に申し込んだという記事が朝日、中日に載っておりますし、特に愛知大学は、さっきもお話ししましたように、ロースクール、大学院大学の司法試験合格率が72%、18人中13人受かったという愛知大学の特徴をどんどん皆さんとともに、愛知大学とともに栄えていかなければならないと思っております。

豊橋の方は、早川市長が愛知大学の卒業でありまして、財政学あるいは金融学を勉強しております。愛知大学も立教大学も特待生で、物すごい勉強家なんです。立教大学のときには副手もやらされたそうです。そういうことは、あの早川さんも言いたがらないそうで、私が今度ちょっと話をするからというわけで秘書課に電話したら、あんまり言わないでくださいよということで、なかなかそういうことで勉強家です。そして、子供の将来ということをものすごく考えております。それがさっき言った、四方　晨さんに諮問委員会の委員になってもらった。

早川さんは、座右銘が（誠心和気、和気百福、和気陽春「万花咲き薫ってこそ春」）というように、平和の精神というか、和の精神を物すごくうたっている。今年でも、平和・交流・共生の都市へというアピールをしました。最近は、正月の懇談会のときには、「動かざること山のごとし　静かなること林のごとし」なんて、これは風林火山からきているわけですが、それをもじって、山から林へおりて来て、その話を東三河から湖西を含めた、そういう広域経済圏を考えているような口ぶりのお話をされました。本間先生と早川さんがちょっと似ているところは、やはり、「致中和」の精神、「中和を致して天地位し　万物育す　天行は健なり」という言葉をものすごく大切にされているようで、リーダーとしては中庸を天命と心得てやるべきだという信念を持っている。そういう形で、

朝日新聞　2006年9月22日(金)

新司法試験48%合格

愛知大は72%、全国3位

中部の4校から37人

愛大が一橋に次ぐ72%

中日新聞　2006年9月22日(金)

愛知大学の創立者のエピソードも加えてお話をさせていただきました。

11時半になりましたので、私のお話は終わらせていただきます。ありがとうございました。

越知専氏講演「豊橋と愛知大学」(2007.1.23　カリオンビルにて）アンケート内容（当日集計分）

| 感想文（一部省略・訂正あり） | 性別 | 年齢 |
|---|---|---|
| ……愛知大学の成り立ち等知りませんでした。今日の話を孫に聞かせ皆々様のご苦労にむくいたいと思います。愛大と中国との交流、意外でした。 | 女 | 68 |
| 地元大学の見方変わりました。有益なお話ありがとう。 | 男 | 83 |
| 愛知大学の知らない過去を初めて知りました。今年は孫が短大に受験予定で身近に感じて、合格したら内容を教えてやりたいと思いました。…… | 男 | 69 |
| わかりやすい話で、しかも言葉もはっきりしていらして大変聞きやすく、あきない1時間半でした。ぜひ1度愛大をお訪ねしたいと思いました。 | 女 | 78 |
| ……本日は愛大に関する様々な事で初めて聞く事が多く、ありがとうございました。スライド中心で堅苦しくなく気楽に聞けました。 | 男 | 77 |
| ……1時間半の愛知大学の流れの講演を聞き、入口に片足ぐらい入らせていただき、もう1度お話を伺うともっと興味が出ると思います。校内のなんじゃもんじゃの樹木ぜひ見学したいです。…… | 女 | 68 |
| 愛大事件については、政治的・思想的背景があり、当時の国際情勢（朝鮮戦争）などとも連なっているとも聞いている。1度くわしく聞きたいと思う。 | 男 | 75 |
| ……学生や豊橋市民の中には、豊橋の歴史、愛知大学の歴史を知らない人も多いと思いますので、豊橋の発展、愛知大学の発展のためにも、ぜひほかの所でも講演を開いてほしいと思います。 | 男 | 28 |
| 私も愛知大学の近くに住んでおり、渥美線を利用しており、10数年前に市の施設見学で学内をくわしく説明していただき、また孫を連れてなんじゃもんじゃも見せていただき、ありがたい思い出が一杯です。よい勉強をさせていただき、ありがとうございました。 | 女 | 80 |
| 昔を思い出しながら、懐かしく楽しく聞かせていただきました。昔の先生方が骨のあったのに感動しました。 | 男 | 80 |
| ・愛知大学についての今までの認識を改める<br>・今日の講座は最高の感銘を受ける | | |
| ……たいへん有意義に過ごせました。越知講師の話しぶり、わかりやすく、ゆっくりと音声もよく、高齢者向きでたいへんよかった。次回もよい会を開いていただきたいと思っています。 | 男 | 74 |
| おじは同文書院の卒業生。新聞記者、中学教員となったが、戦中は警察からにらまれていた。しかしその息子は、沖縄の尚学高校を創設するなど、沖縄の教育に頑張っている。講座を拝聴して、おじはすばらしい人だったなと感動した。…… | 男 | 79 |
| 知られなかったエピソードを聞き、当時のことを思い出し楽しかった。又どこかで話をして下さい。語り継ぐことが必要だと思います。 | 男 | 77 |
| 愛大に対してますます愛着を感じました。豊橋の文化の担い手としての愛大の認識を深めたものと、ご努力をご評価申し上げます。 | 男 | 82 |
| 私の娘とむこが当大学卒業生ですので、今日は興味深くたいへん有意義な話を聞き、地元に暮らしている私はいっそう大学を愛する気持ちになりました。当大学の発展を心より祈ります。 | 女 | 78 |
| 改めて、同文書院時代からの愛大の姿、知らせていただき感動です。主人も卒業生で、誇りに思います。 | (女) | |
| 愛知大学の創成期からのいろいろなことを知り、うれしかったです。主人も上海にいたことがあり、同文書院のこと、耳にしていたので身近に感じました。1度大学の方へも参りたいと思いました。 | 女 | 80 |
| 豊橋と愛知大学とのかかわりについて、きちんとした知識はありませんでした。越知先生の話でよく分かりました。…… | 男 | 74 |
| 愛知大学の知らないことばかりで、少しわかりかけ面白かった。 | 女 | 73 |
| 愛大のこと、知らなかったお話を聞かせていただいてありがとうございました。1度ウォーキングをかねてお訪ねしたいと思いました。…… | (女) | 76 |